新潟の水辺だより
niigata-mizubenokai report
Vol.88
●編集発行
特定非営利活動法人
新潟水辺の会
●発行日
2014年07月19日

report 01

通船川河口の森「カヌー艇庫竣工式」開催レポート

通船川・河口の森に、万代高校端艇部と共同利用するカヌー艇庫を建設し、毎月の川清掃および乗舟訓練の基地としてゆきたい・・・そして、広く市民に乗舟体験による親水活動を展開し、舟運復活の夢を育て、市民・住民に水辺環境への関心を広げてゆきたい・・・と訴えて、建設資金の寄付を呼びかけ始めたのは、2013年の秋でした。

カヌー艇庫の建設費は約240万円となりましたが、一部助成金（公益信託大成建設自然・歴史環境基金より50万円、公益信託にいがたNPOサポートファンドより47万円）の他は寄付金をお願いしました。

寄付の呼びかけに応じていただいた協力者は、117名（企業・団体含む）となり、おかげさまで必要な資金を集めることができました。ご協力いただいた皆様には厚く感謝を申し上げます。寄付にご協力いただいた皆様のご芳名を銘板に記して、カヌー艇庫の外壁に掲示することといたしました。

カヌー艇庫はその敷地を県から河川占有許可を受けて本年1月に着工し、2月末に完成いたしました。平屋建ての床面積約60m^2（幅3間、奥行6間）で、最大24艇のカヌーを収納できる艇庫となりました。

カヌー艇庫の竣工式は、2014年4月12日（土）午前10時から12時まで、艇庫が立地する新潟市東区沼垂（龍が島）6122-2（通称：通船川・河口の森）にて、明るい春の日差しの下に63名の参加者を得て開催されました。

竣工式は私（佐藤）が進行役を務め、①開会挨拶～②来賓祝辞～③安全祈願祭～④吹奏楽演奏～⑤端艇部練習披露～という順番でプログラムを進めて参りました。

（1）開会挨拶で当会の大熊 孝代表は、カヌー艇庫の完成と、河口の森の公園としての整備（市によるトイレ設置を含む）が、新たな活動の起点になることと期待していると語りました。

（2）来賓祝辞では、①新潟市立万代高等学校・教頭：石川譲太様、②新潟県地域振興局地域整備部・副部長：鈴木則昭様、③新潟市土木部土木総務課・河川海岸砂防室長：濱崎憲夫様、④通船川中流交流会（地域住民代表）：佐藤泰雄様、の4名の方々からご祝辞をいただきました。

（3）安全祈願祭は、通船川流域に400年の歴史を有する大形神社の禰宜（ねぎ）：寺山仁文（まさふみ）様に執り行っていただきましたが、「修祓（しゅばつ）」～「降神」～「献饌（けんせん）」～「祝詞（のりと）奏上」～「清祓い」～「玉串拝礼」～「昇神」～「神酒拝戴」という本格的な神事の進行に、参加者一同神妙な面持ちで、カヌー艇庫を基地とした今後の活動の安全を祈願いたしました。

（4）吹奏楽演奏は、万代高校・吹奏楽部（フルメンバー22名）による友情演奏が行われました。春の陽を浴びて明るく軽快な音楽が会場を包み、会場のアンコールの声に応えて計3曲が披露されて、竣工式は良い雰囲気に盛り上がりました。

吹奏楽演奏後には、カヌー艇庫の建設に中心となって取り組んできた当会世話人の横山 通さんからカヌー艇庫の建築データの説明があり、

共同利用する万代高校・端艇部監督の江龍田 章先生から端艇部の活動状況の説明がありました。

(5) 端艇部練習披露では、正午近くに竣工式を閉式とした後、通船川中流交流会の佐藤泰雄さんが準備してくれた「豚汁」と当会が用意した「本格珈琲」のサービスの提供とともに、万代高校端艇部の練習風景を眺めながらの自由散会といたしました。

竣工式には63名の参加者を得ましたが、万代高校の関係者、県と市の関係者、そして当会のメンバーが参加する中で、県立分水高校カヌー部監督の澁谷 毅先生とシーカヤックを操る新会員の阿部 勝年さんが一緒に参加してくれたこと、そして現在は関東在住でお会いする機会が少なくなった、世話人の土方 幹夫先生が参加してくれたことが、特筆すべきことで嬉しいことでした。

また、カヌー艇庫を共同利用することになる万代高校・端艇部の部員の諸君は、竣工式を我が事として準備と後片づけに大活躍し、存在感を発揮してくれました。

このカヌー艇庫も、当日の竣工式も簡素と言えるものですが、ここから始まる新潟市の市民と川の新時代を予感させるものであったと思っています。

前事務局長　佐藤 哲郎

report 02

第５回 信濃川大河塾のお知らせ

◆信濃川・千曲川・犀川・奈良井川を遡る旅

恒例となりました「信濃川大河塾」を今年も計画しました。昭和９年の秋、奈良井川で捕獲された鮭２尾（信濃川河口より290km遡上）が、松本市山と自然博物館に保管されています。その鮭のように、信濃川、千曲川、犀川を遡り、奈良井川源流を目指す水辺ウオッチングの旅です。

第５回信濃川大河塾のチラシ

奈良井川は、中央アルプスの茶臼山北壁に源を発し、南下する東の天竜川、西の木曽川に挟まれた中を北上、中山道の奈良井宿を流れ、松本市大字島内で梓川に合流する流路延長56.3kmの河川です。

「奈良井宿は奈良井千軒」と言われたくらい賑わった処です。現在の宿場の町並みは、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、往時の面影を色濃く残している奈良井宿に宿を取りました。

更に国の重要文化財となっている「緑のドレスに19段の白いフリルが重なる、牛伏川のフランス式階段工」の見学も行います。そして今回の大河塾の現地案内は、「信州のサケ文化」の著者である元長野県立歴史館 総合情報課長 宮下健司氏と、水辺の会の大熊代表が行います。

皆さんのご参加をお待ちしています。

世話人　加藤 功

report 03

「信州のサケ文化」から

大河信濃川（千曲川・犀川を含む）の沿岸に暮らす長野・新潟県民の多くは、古くから繰り返し水害の苦汁を味わう一方で、毎年必ず日本海から遡上してくるサケ・マスに象徴される計り知れない川の恵みを受けながら、歴史の歩みを続けてきた。

『長野市民新聞』に「信州のサケ文化」と題して2011年5月21日から2013年12月26日まで約2年半にわたり毎週土曜日に124回にわたって掲載した。縄文時代から昭和15年の西大滝ダムの完成による鮭の遡上停止まで、1万年にわたる信濃の鮭漁とその文化について連載させていただいた。その概要を紹介したい。

多くのサケが遡上した、犀川、高瀬川、穂高川の合流付近

千曲川流域の栃原岩陰（北相木村）や屋代遺跡群（千曲市）から発掘された鮭骨から縄文時代の鮭漁、平城京出土木簡、『延喜式』にみる奈良・京の都に運ばれた信濃の鮭、さらに伊勢神宮や斎宮にまで信濃の鮭が運ばれていたのである。

鎌倉時代になると弘安4年（1281）に父から太田荘の神代・津野両郷（長野市豊野）の地頭職を相続した島津久長は、その得分を現地に代官を置いて徴収して薩摩に運んだが、その中に千曲川産の塩引鮭や筋子が含まれていた。

戦国末期、真田昌幸の長男信幸の嫁であった小松姫は、紀伊九度山の蟄居先にいた昌幸と信繁（幸村）に上田で捕った鮭の子を送った。故郷の味をあじわった昌幸は、慶長6年(1601)11月12日付で国元の家臣に礼状を書いている。

江戸時代、松城城主となった酒井忠勝は元和4年（1618）、家臣3名の名で大豆島村（長野市）に鮭打切漁を命じ、鮭10本のうち4本を運上として上納させた。松代藩主となった真田信之は音信（贈物）として将軍秀忠に「鮭十尺」を贈り、秀忠が礼状を送っている。加賀藩の参勤交代時に御休所であった北国街道の丹波島宿本陣柳島家（長野市）では、犀川で初鮭が捕れると飛脚を立てて3代藩主の前田利常に時候見舞いとして鮭を贈り、利常の礼状が届いている。

江戸時代には7割の鮭が遡上したという犀川流域においては、高瀬川・穂高川・万水川が犀川に合流して一筋の川になり、湧水が豊富な明科村（安曇野市）の地は鮭の産卵場所と沿岸の人々に認識され、鮭の禁漁区になっていた。

享保9年（1724）、松本藩の6代藩主水野忠恒は犀川の最も川幅の狭い熊倉橋（安曇野市）の前で川止め漁を行っている。文化9年（1812）10月、光村（安曇野市）の善兵衛ほか7人が犀川の漁場にいるところへ上流の宮淵村ほか7ヵ村（松本市）の漁師たち39人がやってきて、実力行使で簀立を少し取り払ったところ、双方で石の投げ合いに発展し、双方にけが人が出ている。

文久元年（1861）初冬、皇女和宮は将軍家茂に嫁ぐために中山道を下向し、11月5日塩尻宿で「鮭あんかけ」を召し上がっている。

明治12年（1879）1月には上伊那郡南箕輪村の「鮭魚養場」の建設工事が2月1日から始まり、3月10日には新潟県岩船郡村上町（現村上市）の三面川で採卵し、人工受精させた鮭の卵6万個が送られてきた。卵は3月いっぱいで孵化し、長野県生まれの4万尾の鮭稚魚となり、5月24日に天竜川へ放流した。

明治12年5月、長野県は三面川から受精させた鮭卵を移入するだけでなく、千曲川・犀川に遡上してきた親鮭を獲り、県内で人工受精・孵化・放流する自給計画にも着手し、綿内村清水（長野市）に養魚場を設置した。

明治13年6月25日には、明治天皇が本山宿（塩尻市）の旧本陣小林吉夫家に宿泊した際の料理に南箕輪村と綿内村で養殖した信州産鮭が加わった。県当局は維新県政の業績を天皇はじめ、政府重役に知ってもらう絶好の機会ととらえ、目玉にしたのが山国信州における鮭の孵化・放流・養殖事業だった。

形のあるものはいつか姿を変えるが、人の営みは「文化」としていつまでも残る。その一つがサケ文化である。

これからは新潟水辺の会のみなさんと活動を共にしながら、今までの会の取り組みや信濃川や下流域での鮭漁について学びながら、戦後の長野県でのカムバックサーモンへの取り組みや信州サーモンの開発、さらには新潟水辺の会の取り組みも含めて一冊の本として刊行したいと考えております。今後ともよろしくご指導の程お願いいたします。

元長野県立歴史館 総合情報課長
宮下　健司

■水辺レポート

report 04

市民総がかりで行ったとやの潟環境遊覧

新潟市が6月21日(土)に行った、「いくとぴあ食花」のグランドオープンに合わせて、21日と22日(日)の2日間、子どもたちを招待して「とやの潟環境遊覧」を行いました。

阿賀野川の中流にある川の駅・阿賀の里も実行委員に加わってもらい、川下りに使用している遊覧船2艘を運んで鳥屋野潟に浮かべるという、大がかりの事業であり、まさに夢の遊覧船体験のイベントでもあります。

事業主体は、当会を含む地元の市民団体や企業及び農漁業団体、関係機関の9団体と協力団体で構成する「とやの潟環境舟運実行委員会」で、私達新潟水辺会は準備の段階から深くこれらに関わりました。

水深の浅い鳥屋野の航路を決める最も重要な水深調査をはじめ、企画から運営全般に渡り手伝いをいたしました。水深調査に使用した計測機は、通船川のヘドロや水深調査のために購入していた魚群探知機です。航路を示すブイの設置作業はきつくて、雨の中で夕方までご苦労をおかけすることになりました。

これらの作業には、当会の会員を中心に、実行委員のひとたちも参加して、運航の安全確保に努めました。

ブイはペットボトル2本に黄色いテープを巻き付けてこれに紐を結び、その先に土砂を詰めた土のうを、オモリとして沈めて固定するという、シンプルでアイデアに満ちたものでした。

すべてが初めての作業で、予想外のことも多くありましたが、臨機な対応と献身的な努力により無事に終了することができました。

乗船者は予想をはるかに越える1,100名となりました。

鳥屋野潟での親水遊覧は私達市民が待ち望んでいたことであり、この度の事業に対して高い評価をいただいた結果でもあります。

広大な鳥屋野潟の水上から初めて見るその風景は素晴らしく、まさに市民の宝としての存在を実感できるものでした。

同時に準備や運営を通じて、市民力の強さを互いに実感できるイベントでもあり、その意義は極めて大きいものと思われます。これを契機にして鳥屋野潟親水活動が継続的に行われることを期待致します。

連日早朝より参加して運営に当たられた会員の皆様と、この事業の実行委員長でもある相楽 治当会副代表のご尽力に対して謝意を表します。

とやの潟環境舟運実行委員会
船ガイド担当委員　香田和夫（当会監事）

書籍紹介

梶原健嗣 著「戦後河川行政とダム開発―利根川水系における治水・利水の構造転換」

『利根川本として33年間定評のあった大熊孝著「利根川治水の変遷と水害」（東大出版会1981）に代わる新たな決定版の登場！』

「無駄な公共事業」という言葉に対して、条件反射のように「利権の構造論」を思い浮かべる人が多いのではないか。しかし、それだけでは全容の解明は難しい。

多目的ダム計画においては、治水と利水の絡み合いが鍵となる。本書は、技官の世界とされ、社会科学のブラックボックスだった河川・ダム政策の問題点に迫る。

河川行政史を縦糸に、利根川開発を横糸に、社会学・自然科学を越境するアプローチで、ダム計画の問題点を鮮やかに描き出す。(チラシ掲載の紹介文より)

本体7,500円（税別）
2014年6月ミネルヴァ書房より刊行

report 05

新入会員・渡辺 勇さんのお便りを紹介いたします。

5月に入りまして、10日（土）にはカヌーによる親水活動、11日（日）には川掃除活動を行いましたが、その双方に新入会員となった渡辺 勇さんが参加されました。

渡辺 勇さんは新潟ふるさと村に近い新潟市西区山田にお住まいですが、興味を持って通船川周辺を散策していたおりに、万代高校端艇部のカヌー練習風景に出会い、そこで万代高校の江龍田先生から当会の川掃除活動のことを聞いて、10日（土）朝に自発的に私たちの活動に参加して来られました。

カヌーの前座席で漕ぐ渡辺さん

10日は川掃除ではなくカヌーによる親水活動の日でしたので、私たちは渡辺さんを関屋分水～信濃川のカヌー体験にお誘いし、渡辺さんは生まれて初めて、船で山の下閘門を通過する経験と、信濃川でのカヌー漕ぎを体験することになりました。どちらも渡辺さんにとっては、新鮮な驚きと感動であったようです。

渡辺さんは翌日の通船川の川掃除にも初参加されましたが、通船川のゴミの状況とヘドロの状況に驚いた様子でした。また、思った以上にハードな仕事であったことと思います。

しかし、川掃除終了後に恒例の野外昼食を共にした渡辺さんは、その場で当会への入会を申し出られ、会費2千円を差し出されました。

そして、来月から川掃除に参加することを楽しみにしているとおっしゃいました。

後日渡辺さんには、親水活動と川掃除に初参加された写真をプリントして郵送いたしましたが、渡辺さんからとても感動的な返信ハガキが返って参りましたので、皆様にご紹介申し上げます。（私の入会時の初心と重なる思いがいたしました。）

昼食を共にして、カメラを向いた渡辺さん

＜ハガキの文面は、以下のとおりです＞

先日は親しくお仲間入りをさせていただき、2日間を楽しく過ごさせていただき、有難うございました。又本日は、会報紙をお送り下さり、感謝申し上げます。全てが初めての体験でした。パドルのひと漕ぎひと漕ぎで顔にかかる水しぶきが、何とも言われぬ爽快感と、目線が水面に近く、舟べりを打つ波の音も心地よく、心癒しの日でした。異常天候、人間の飽くなき欲望からの自然破壊、一方で貧困からくる乱開発、海水温の上昇、南海トラフ地震、富士山噴火・・・私どもがあの世で昔話をしている頃、この地球はどうなっているのでしょうか？果たして人類は生存しているやら・・・といった事は考えずに、ひたすらノーテンキに生きてきました。この辺で心を入れ替え、川掃除に邁進します。2～3回は川に落ちるを覚悟の忠告がありましたが、信濃川ならいざしらず通船川ではペットボトルとヘドロと仲良くなりたくありません。先回の反省を含め、次回はゴム長、ゴム手、それにマスクを用意して臨みます。楽しみにしていますので、どうぞよろしく。

渡辺 勇

前事務局長　佐藤 哲郎

新潟水辺イベント情報

○早出川清流スクール
8月10日（日）09:30 ～ 14:00
場所：五泉市　早出川右岸赤羽地内　太川橋下
内容：早出川体験スクール「カヌー&カジカとり体験」
募集人数:小学生以上　計３０名(先着順で受け付け･保護者同伴のこと)
参加費：1人 300円　（保護者を含む。ただし幼児は無料）

○通船川松崎地区三世代交流会（灯ろう流し）
8月17日（日）午後
会場：松崎ニュータウン第二公園

○湊まち新潟歴史ウォーク 2014「水運で活用される水路散策（通船川）」
8月23日（土）募集終了

○第５回 信濃川大河塾･源流ツアー第２弾「信濃川、千曲川、犀川、奈良井川を遡る旅」
8月30日（土）～31日（日）
参加費：14,000円（お酒、飲み物は別料金）
問合せ：新潟水辺の会　025-264-3191

○市民活動団体「大交流会」
8月31日（日）17:00 ～
参加費：1,500円
会場：海の家「朝日屋」関屋浜海水浴場
問合せ：新潟市市民活動支援センター
電話：025-224-5075

○つうくり市民会議
9月27日（土）午後
参加費：無料
会場：新潟県立大学（新潟市東区海老ケ瀬471）
主催：通船川・栗ノ木川下流再生市民会議
問合せ：新潟県新潟地域振興局
地域整備部計画調整課
電話：025-231-8328

○三人委員会水俣哲学塾（顧問・内山節＋鬼頭秀一＋代表・大熊孝）
10月3日（金）13:00 ～ 5日（日）12:00まで
会場：水俣病センター相思社（熊本県水俣市袋34）
費用：20,000円
問合せ：水俣病センター相思社・永野三智
電話：0966-63-5800／FAX；0966-63-5808
メール：nagano @ soshisha.org

○平成26年度 新潟市環境フェア（ブース出展）
10月5日（日）10:00 ～ 16:00
会場：万代シティ通り
入場無料

○ 2014年度　第30回水郷水都全国会議・東広島大会
12月6日（土）・7日（日）
開催内容は未定です。

○水辺シンポジウム 2014　開催予定
日時・場所は未定です。

※紹介したイベントの詳細は新潟水辺の会ホームページでも随時お知らせします。

編集後記： 新潟市が設置した「新潟市市民活動支援センター」の運営に関わっています。現在300以上の団体が登録しており、NPO法人やボランティア団体が利用する「ボランティアセンター」と言ったらわかりやすいでしょうか。

古町6の「西堀6番館ビル」の3階に有り、少しわかりにくい場所ですが、年間18,000人以上が利用しています。年末年始以外は休まず、午前9時から午後10時までオープンしています。登録や利用は無料です。打合せやチラシ印刷、様々な団体の情報収集の場として利用されています。貸し事務ブースも有り、机ひとつ程度のスペースですが、事務所を持つのが難しい団体には有り難い施設です。（賃料は月5千円です）

今年は開設10周年を迎え、「市民活動団体 大交流会」（8月31日、会場:海の家「朝日屋」関屋浜海水浴場）、「市民活動支援シンポジウム」（11月15日、会場:新潟市民プラザ）、「10周年記念祭」（12月14日、会場:支援センター）を開催します。興味の有る方、利用したい方は支援センターをお訪ねください。以下は支援センターのURLです。

http://www.shimin-ouen.com/center/index.asp

編集人：森本　利

●発行：特定非営利活動法人新潟水辺の会
●事務局　〒950-2264　新潟市西区みずき野4-7-15 大熊 方
Phone 025-264-3191　Fax 025-264-3260
●ホームページ http://niigata-mizubenokai.org　●メール info@niigata-mizubenokai.org
●会員数　個人会員167人、法人会員8団体、賛助会員7人、顧問7人、特別会員1人（2014年7月1日現在）